

「希望 — 愛の中を生きる —」

聖句「主よ、あなたはわたしの希望」—詩編71篇5節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2010年8月26日
第118号



『男性保育者』

希望が丘教会 附属めぐみ幼稚園
園長 田名網 仁

今から約二十年前、ひよんなことから、考えてみたこともなかった保育の現場に足を踏み入れてしまいました。「神様が私をこの道に導いて下さったのだ」と確信をもてるようになったのは、それからずっと後のことでした。

二十年前のキリスト教保育連盟神奈川部会には男性保育者がほとんどいなかったように記憶しております。もしかしたら、いたのかもしれないが、キ保連の講演会や夏期講習会などで、お目にかかる機会がありませんでした。その頃は「この世界に馴染んでいけるのだろうか？」とい

聖句

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。

—創世記1章31節—

う不安な気持ちが大きかったので、もし、男性保育者にお会いできたら、いろいろなことを話したり、情報交換していたことでしょう。そのような中で、忘れられない幾つかの思い出があります。

何十周年かの夏期講習会が熱海で開かれ、朝食は全員が集まって大広間で行われました。座敷のはるか彼方には男性園長の姿が見えますが、百人以上はいるであろう女性保育者に囲まれ、すごく緊張しつつ鱈の干物を食したのが記憶に残っています。

又、新任教師研修会に参加したこと。保育に役立つゲームを教えていただく機会がありました。参加した男性保育者は私一人でした。ゲームの中に、ジャンケンをして負けたら、相手の開いた足元をくぐって最後尾につながるというものがありました。私はジャンケンが弱いので当然のように負けて、ルールに従い、相手の足元をくぐって最後尾に行こうとした時「キャー」という悲鳴が頭上でした。何かあったのかなと思いましたが、どうやらその悲鳴の原因は私にあったのです。途中でエスケープして最後尾についた時のことが、今も懐かしい思い出として残っています。

あれから二十年。キリスト教保育連盟神奈川部会の集まりに出席させていただいて周りを見ると、男性保育者の顔が幾人も見えるようになりました。二〇〇八年度には、第一回男性保育者の会が開催され、二〇〇九年度の第二回男性保育者の会では中核を担って下さる先生もおこされました。

現場での男性保育者の役割とは何かと、自分なりに考えてきた結果、自然なままで良いのではないかと、う所に行き着きました。子ども達に接する時、男性は男性としてのアプローチがあるはず。もつと言えば、A先生にはA先生の接し方、B先生にはB先生の、誰にも真似できない、それぞれの型があるでしょう。

神様は、人を創造され、男と女を造られました。これが神様の造られた世界です。男性の働き、女性の働き、それぞれに違うでありましょうが、私たちは各々、どうして神様がこの道に導いて下さったのか考え、確認する必要があります。そして、神様から導かれた場で、ベストを尽くして、その働きを全うすることこそ、神様が望んでおられることではないかと思えます。

新任教師歓迎会の報告

神奈川幼稚園 阿部優子

四月二十一日(水)、清水ヶ丘教会にて新任教師歓迎会が行われました。歓迎のメッセージでは、ひかりの子幼稚園、めぐみの幼稚園園長の豊嶋ときわ先生から、「希望を持って成長し続ける」というテーマで、お話をいただきました。先生が新任の頃の体験談や失敗談のエピソードを通して、子どもも先生も保護者もみんな違うが、神さまはどんな人も平等に愛して下さること。私たちはそれぞれその一部しか知らないのだから、神さまの愛の中、希望の中を共に歩んで行こう。自分自身を見つめなおし、成長する為、いろんな人に接して、いろんな人に感謝しようと、希望に満ちた力強いメッセージをいただきました。先生の飾らない笑顔に満ちたお話に、会場の雰囲気も終始なごやかなムードに包まれていました。ベテランの先生の話術を勉強できるいい機会ともなりました。

また礼拝の中では、横須賀上町教会牧師、白百合幼児学園園長、キリスト教保育連盟神奈川部会副部会長の森田裕明先生より「保育者にとっても重要な教え」という題で説教をして頂きました。今、

私が、この園で保育をしているということ、は、神さまがあなたはここに必要だと選ばれたからである。一人ひとり、異なった力を持っている先生たちが、心を合わせて神さまを愛そう。子どもたちに、私たちはどれだけ神様に愛されているのかを伝えよう。私たちが愛し続けてくれるイエスを伝えよう。今、自分ができることを精一杯やってみよう。という心のもったメッセージでした。

研修会には、百二十六名の出席のうち、新任の先生方は三十九名おり、部長の島田勝彦先生からプレゼント(相模翠ヶ丘幼稚園の子どもたちが作ったしおり)をお渡ししました。その後、ちよつと先輩からのメッセージと題してかえで幼稚園の安藤先生と野毛山幼稚園の柴田先生からお話をいただきました。また、出席された新任の先生方からも、自己紹介をしていただきました。簡単な手遊びなどもし、短いながらも楽しい時間を過ごせました。

共にキリスト教保育を担う者として、良き学びの時、また交流の時がもてましたことを、心から神さまに感謝いたします。神さまに結ばれた私たち。今年度も共に頑張りましょう！



新任教師研修会の報告

豊かな学びの時間を過ごして

横浜英和幼稚園 岡田直美

今年度は、現場で常に子どもたちに接して下さっている園長先生方を講師にお招きし、エネルギーシユで生き生きとしたお話を伺っています。

5月は、横浜英和幼稚園園長の菰田とみ子先生から「ようこそ、子どもの世界へ」と題してお話でした。

「子どもに学びましょう」というテーマが根底に流れているお話で、子どもたちにはフアンタジーの力や、なりきる力が豊かにあることを改めて感じました。発達曲線を用いて、大人は早く曲線の頂上に到達させたいと思いき、させたい、させなくてはと、思ってしまうことが多い。しかし保育者は、この子はどうして出来るようになったのだろうと、視点を変えて見ていくことが大切だということも学びました。参加者からは「子どもたちが、出来るようになることに目をとらわれてきたが、視点を変えることの大切さを聞いて、自分の気持ちも楽になった。」という発言がありました。また、「規則ではなく、心で伝える。」という言葉が印象に残ったという感想もありました。

7月は、捜真幼稚園園長の東間千鶴子先生をお招きし、「キリスト教保育を楽しむんで」という題でお話を伺いました。

手遊びひとつとっても、自分が心を動かされるものを、子どもと歌いたい。と話される東間先生から、子どもに対する熱い思いとエネルギーを感じつつ、お話が始まりました。子どもを通して自分と出会うことや、自分のルーツを知ることでの、保育の深まり、祈りがあり生み出されてきている各園の歴史の中に、神様が自分を用いて下さっていることの幸せを感じるお話でした。また「保育に不安を感じている時にも、私たちは神様に愛されていて、神様が私たちの前を歩いてくださるのだから、安心して保育をしてほしい。」と話して下さったことが強く心に残っている。こういう私を、保育者として子どもの前に立たせて下さっている神様に感謝。」という感想もありました。

手遊びやゲームを交え、東間先生の引き出しの多さを感じつつ楽しみながら大切な学びをし、最後には先生のピアノ伴奏で「いとしいあなた」を全員で歌って、充実したあたたかい時間を過ごすことが出来ました。

お忙しい中、私たちのために準備を下さり、豊かな学びの時として下さった園長先生方に心から感謝致します。

「伊勢原幼稚園のいいところ」

伊勢原幼稚園 長塚真由美

「せんせい、おはよう」

子どもたちの元気なあいさつで幼稚園の一日が始まります。私たちの幼稚園は小規模園です。日々の保育の中で、子どもたち一人ひとりとじっくり関わることを心掛け、家庭的な雰囲気であることが自慢のひとつです。

また、手作りのものや自然の素材にこだわりの、子どもたちとともにある活動を大切にしています。伊勢原幼稚園は様々な場面で心温まる雰囲気にも包まれる幼稚園です。

「のびのび元気 翠ヶ丘幼稚園」

翠ヶ丘幼稚園 渡邊麻衣

翠ヶ丘幼稚園の園庭は、豊かな緑に囲まれています。楽しみなのは実のなる木。すももや柿など季節ごとに子どもたちと収穫の喜びを感じています。そして子どもたちは、みんな仲良し。学年を超えてよく遊び、よく交わり、たくさんさんの関わりの中で互いを思いやる心が育まれています。父母の会活動も熱心で、保護者も皆とても協力的です。誕生会には毎回、先生たちの手作りおやつ♡ 恵みと愛に溢れた幼稚園です！

「ひの木幼児園の自慢」

ひの木幼児園 三浦ゆり

本園は、少人数保育を行い、園児一人ひとりの個性を教諭全員が把握し、大切にしています。行事の特色として、夏の丹沢での川遊び、近隣公園への散歩、ザリガニ釣りなどを通して自然の素晴らしさ、小さい命の大切さを教えています。また、卒園生には、学童活動、教会学校を行い、卒園してからも本園や教会に繋がる卒園生が多く、卒園後も本園を応援して下さい。多くの卒園生、保護者の方がいることは大きな喜びです。

「頌和幼稚園のいいなと思うところ」

頌和幼稚園 梅崎芙美子

頌和は狭いです。狭いけれども広いのです。庭はほとんど砂場が占めています。ど真ん中に水道つきのでっかい砂場。小さい砂場も別にあります。砂は土の替わりにはならないので、土場もあります。泥だんごを作りたい人は両方をうまく調べています。温水の出る足洗い場はドロコの子で賑わっています。何時間でも砂・土・水でいっぱい遊んでほしいと願う私たちの心の庭です。



「海山の恵みに包まれて」

ハリス記念鎌倉幼稚園 島 義信

ハリス記念鎌倉幼稚園は、創立百一年目を迎えました。百年の記録写真をたどると、水着で由比ガ浜へ出かける昭和初期のスナップ、源氏山公園での親子遊びなど、たくさん写真があります。

海、山、といった自然が与えられ、子どもたちは四季折々の自然の素晴らしさや厳しさに触れ、神さまの豊かな恵みを全身で、感じとっています。



「子どものための幼稚園」

宮の台幼稚園 千葉朝子

子どもが自由遊び中、園庭で蝶を追いかけると、隣の広場へ飛び去りました。絶対捕まえない思いを担任が受け止め、クラスの子どもたちに相談したところ、みんなで広場へ行くことに決定。綱を持ち、走り回り、捕まえた時の顔は自信に満ちていました。本園は子どもが夢中になり、やりたいうことに挑戦し、遊び込める環境があります。枠にとらわれず、子どもが自分で考え、責任を持ち、行動できるよう祈り、見守ります。

「楽しみにしている夏季保育」

愛の光こひつじ学園 藤波喜久子

夏季保育は夏休みでなければできないことを考え、早朝、夕方、平常の三日間を行っていて、とても楽しみにしている夏季保育です。

早朝保育 七時—九時半 朝食の準備、礼拝、朝食タイムです。

夕方保育 四時—六時半 礼拝、持ってきた好きなレトルトカレーで夕食、帰りに牛乳パックの提燈に火を灯して帰ります。幻想的です。

平常保育 九時—十一時半 礼拝、お誕生会をします。

「預かり保育『ロバの子クラブ』

関東学院野庭幼稚園 小高千恵

一人ひとりに添った預かり保育にしたいと願って始めた預かり保育も三年目を迎えました。七時から十八時三十分まで、年末年始以外は休みなく行っています。朝七時から七時三十分の間に登園する子どもたちは、朝食を持参して園で食、とても良いことにしています。おにぎりの具やサンドイッチなどに、ご家庭の工夫が見られます。午睡に関しても保護者と相談し、時には子どもの希望を聞きながら休息の時としています。

〈役員会報告〉

書記 鈴木裕美

◆ 四月十三日（火）清水ヶ丘教会にて行われました、二〇一〇年度キリスト教保育連盟神奈川部会総会議事録が承認され、今年度より総会議事録を各園に配布することを決めました。

◆ 二〇一〇年度 夏期講習会

八月二十六日（木）関東学院大学にて行います。全体会議師は深町正信先生です。午後は七分科会に分かれての学びです。

◆ 新任歓迎会

四月二十一日（水）に清水ヶ丘教会において行われ一二六名の出席（内三十九名が新任）

◆ 新任教師研修会（第一回）

五月十二日（水）横浜英和幼稚園にて、「ようこそ子どもの世界へ」と題して菰田とみ子先生にお話しをしていただきました。

◆ 第一回講演会

六月二十三日（水）に野毛山幼稚園にて、小野慈美先生に「保育者としてのイエスさま」と題してご講演いただきました。

◆ 神奈川部会ホームページ

ホームページが完成しました。訂正等がありましたら、野毛山幼稚園の奈良昌人先生までご連絡ください。

第一回講演会報告

御濠端幼稚園 岩井雪乃

六月二十三日（水）野毛山幼稚園にて第一回講演会が行われ、二十五園百十九名の多くの方が参加されました。小野 慈美先生は最初にご自身の名前の由来から今までの働きまでご紹介ください、和やかな雰囲気では始まりました。そして、三つの聖書のお話を通し「教育者（保育者）としてのイエス像」と題してお話ししてくださいました。

まずはザアカイのエピソード（ルカ十九・一・十）から、イエスさまがザアカイにしたように私たちも表面には出ていない子どもの内面を理解することが大切で、子どもを愛するということとは子どもの内面を理解すること。また、子どもが必要としていることとは何であるかを洞察し、それを提供することが大切であり、子どもの育つ力（変わる力）を信じるのが大切であると語られました。

また、迷子の羊のたとえ（ルカ十五・一・七）から神様は一人ひとりをごらんど大切に重んじてくださっているかが分かる。私たちもクラスの子

どもを（クラスが三十人の場合）三分の一としてではなく、一分の一が三十人分であると考えることが大切。ひとりごとを大切にすることは全体を大切にすること。現代の子どもたちははどれだけ自分の存在意義を感じて生きているのだろうか？ 私たちは「あなたが大事であなたが生きていることはとても尊いこと」というメッセージを繰り返し伝えていくことが大切。一人ひとりがかけがえのない絶対的な価値であるということを人間が気づくことを神様は喜んでくださると語られました。

また、ペテロに対するイエスのまなざし（ルカ二十二・六十・六十二）からペテロは自分の罪や愚かさを知ると同時に、イエスさまの赦しと慈しみを感じ、泣いた。裁きのまなざしであったら泣くことはできなかつただろう。主イエスの前に立つとき、自分の不十分さに気づく。それにもかかわらず、尊く重い使命が与えられている。このギャップの自覚が大切。このギャップを埋めるのは、主イエスが自分を愛して下さっているという信頼。その愛に支えられ、自分は不完全だが主イエスに依り頼んでいく時、主イエスも私たちを信頼して言われる。「わたしの子羊を飼いなさい」

そして最後に、「私たち保育者も神様から愛されている」というメッセージを語ってくださいました

訂正

部会日より第一一七号4ページのG分科会報告に間違いがありました。

× 関東学院野庭幼稚園

○ 関東学院六浦幼稚園

お詫びして訂正いたします。



編集後記

新企画として、園の自慢コーナーを設けてみました。同じ部会の仲間として励ましあっていければと思います。原稿をお寄せくださった先生方、ありがとうございました。

発行日 二〇一〇年八月二十六日

発行所 茅ヶ崎市芹沢九一三

ひかりの幼稚園

編集者 神奈川部会 広報担当